

## 高度救急からプライマリ・ケアまで 幅広い研修プログラムで「良医を育てる」

### 東海大学医学部付属病院



**神** 奈川県西部を医療圏とする東海大学医学部付属病院。カバーする医療人口は100万人にも上り、高度救命救急センターや総合周産期母子医療センター、がん診療拠点病院など、地域の中で大きな役割を担っている。全国的な導入を前にしたドクターヘリの試行にも関わり、広域救急体制の基地病院としても機能している。臨床研修医の育成のための環境やプログラム作りにも力を入れ、「良医を育てる」ことを理念に掲げる同院。地域を支える救急医療とプライマリ・ケアを両立させながら、臨床経験豊富な医師を育てる研修プログラムについて取材した。

#### 広域救急体制の中核として 地域医療の中心を担う

神奈川県伊勢原市に位置する東海大学医学部付属病院は、2002年に高度救命救急センターの認可を受け、県央から県西地域にかけての重症患者の診療を一手に引き受けている。1999年から1年6ヶ月にわたって当時の厚生省の試行的事業としてドクターヘリの運用を開始し、全地域への導入前のパイロットスタディとなるなど先駆的な役割を果たした。神奈川県では唯一ドクターヘリを有している他、全国でも珍しい遠洋海域の洋上救急も行っている。

救命救急医学教授の猪口貞樹氏は、「当院より西の地域には500床を超える規模の大きな病院は無く、重症患者を常に受け入れられる体制を取らなければ、この地域の医療を支えることはできません。救急は地域医療の中ではとても重要なのです」と使命感を持ってチームを率いる。

年間に受け入れる救急車搬送台数は約7500台。中でも外傷・中毒・熱傷の症例数は全国244の施設中、常にトップクラスだ。トラウマ（多発外傷）患者の場合は、トラウマバイパスといって、すぐに手術などに対応できる全科そろった病院に症例が集中す

## ハイブリッド型コースで研究分野の発展にも力を注ぐ

高度な医療を提供する大学病院として、研究分野の発展にも力を注いでいる。同院の研究分野では、講座制ではなくユニット制を導入している。診療に関しては臓器ごとにグループが分かっているが、研究面では横断的に関係した研究者が集まって、一つのグループを作って研究をする。

大学病院でありながら、臨床・教育・研究の各分野が独立した形を取り、自由に選択できるシステムを取っているところが特色だ。各分野を分けることで、「基礎研究から臨床につなげるトランスレーショナルリサーチが活発になるメリットがある」と飯田政弘病院長は言う。

「教授が全てを統括する旧来の体制を見直し、若いうちから自主的に研究テーマを考えて専門性に特化させることで、各自がリーダーシップを取れる体制を整えました。今の医学は、領域を横断して見ていかなければ研究は進みません。あらゆるフィールドから人材が集まって、グループユニットを作ること

で斬新な研究ができると思います」（飯田病院長）

2006年からスタートし、現在では100を超える研究ユニットが作られている。年に一度、ユニットごとの報告がまとめられ、優秀ユニットには表彰や研究費が付くなど、研究活動を活性化するためのサポートが充実しているのも特徴だ。

また、医学部内だけでなく、総合大学の強みを活かして理工系学部などとジョイントした研究も進められている。

臨床志向のある大学院生には、臨床研究を行いながら学位取得を目指すハイブリッド型のコースが用意されている。その間の給与も保証されているため、希望する学生も多い。



病院長 飯田政弘氏



救命救急医学教授  
猪口貞樹氏

る。そういった患者を同院では年間600件ほど診療する。

また、重症熱傷は発生件数こそ少ないが、治療は専門性が高いため、受け入れる病院がほとんどないのが現状だ。そのため、静岡県東部からも患者が運ばれてきており、熱傷での入院患者は年間70人に上る。睡眠薬や鎮静剤の過量内服や危険ドラッグなど年々増加傾向にある中毒症例は、中毒センターで対応。患者が来たらすぐにスクリーニングし、毒薬物の原因を特定する体制が整えられている。

あらゆる症例に対応していることは、「研修医の育成にも役立つ」と猪口氏は言う。20人いる救急科専門医の指導もきめ細かい。

「一度も診たことがない病気を初期診断するのは非常に難しいですから、やはり重症の疾患を診ておかなければならないと思います。特に急性大動脈解離や心筋梗塞は、高度救命救急センターでは診る機会が圧倒的に多い症例。救急に1、2週間もいれば、教科書的な重篤な救急疾患の治療は一通り経験することができます。100万

**総合的な診断力を身に付け、サブスペシャリティにつなげる**

高度急性期医療を提供する一方、ウォークインで来院する患者が多いため、診療ではプライマリ・ケアが求められる。内科は専門ごとに8つの内科

人に1つの症例に毎年出会える”のも特長です」（猪口氏）

医師たちが過重勤務にならないよう3チームに分かれ、交代制で処置に当たる。そのため勤務時間が管理しやすく、女性でも働きやすい環境で、救急科の3分の1は女性医師だという。病院全体でも女性医師への支援が充実しており、産休・育休などの制度はもちろん、院内には保育施設が開設されているので、出産後に短時間勤務で復帰するケースも増えている。



遠洋海域の洋上救急も行う



臨床研修部長  
高木敦司氏

に分かれ、そのうちの一つに総合内科がある。総合内科には現在12人の医師が所属しており、主に内科のプライマリ・ケアと感染症やICUケアが必要な患者の治療を担当している。ICUに1チーム、一般病棟に3チームで医師を配置し、多い時には50〜60人ほどの入院患者の診療に当たる。同院の平均入院日数は12日と短い。2006年に開設されたPFMという部門が独立して看護調整・退院調整を行っているためだ。看護師、ケースワーカー、事務職員と他職種スタッフが専従で管理することで入院がスムーズになった。今後はさらに関連病院や地域の医療施設と連携を取りながら、急性期から在宅診療までの一連の流れを作ることを目指している。

総合内科は初期研修での必修科目だ。「最低2ヶ月は総合内科を回り、それにプラスして重症患者の管理を担当するICU病棟での研修を奨励しています。将来的にどの診療科に進んだとしても、急性期の患者にある程度対応できる医師を育成するためです」と臨床研修部長で総合内科教授の高木敦司氏は話す。

## 2017年度臨床研修プログラム（一部）

基本研修プログラム		地域医療研修プログラム		研修病院
内科1[総合内科]	2ヶ月	内科1[総合内科]	2ヶ月	付属病院
内科2[選択1]	2ヶ月	内科2[選択1]	2ヶ月	付属4病院・協力病院
内科2[選択2]	2ヶ月	内科2[選択2]	2ヶ月	付属4病院・協力病院
救命救急科	2ヶ月	救命救急科	2ヶ月	付属病院
地域医療	1ヶ月	地域医療	2ヶ月	プログラムで異なる*
外科[消化器・乳腺]	2ヶ月	外科[消化器・乳腺]	2ヶ月	付属病院
麻酔科	2ヶ月	麻酔科	2ヶ月	付属病院
小児科	1ヶ月	小児科	1ヶ月	付属病院または付属八王子
産婦人科	1ヶ月	産婦人科	1ヶ月	付属病院または付属八王子
選択1	2ヶ月	選択1	2ヶ月	付属4病院・協力病院
選択2	2ヶ月	選択2	2ヶ月	付属4病院・協力病院
選択3	2ヶ月	選択3	2ヶ月	付属4病院・協力病院
選択4	2ヶ月	選択4	2ヶ月	付属4病院・協力病院
選択5	1ヶ月			付属4病院・協力病院

※基本研修プログラムの研修病院は、神奈川県秦野伊勢原医師会内の診療所、山近記念総合病院（小田原市）、ありがとうみんなファミリークリニック平塚（平塚市）  
地域医療研修プログラムの研修病院は、美瑛町立病院（北海道）、石巻赤十字病院（宮城）、大船中央病院（神奈川）、諏訪中央病院（長野）、長崎県島原病院、東部クリニック（沖縄）のいずれかで2ヶ月（諏訪中央病院のみ3ヶ月・選択4は1ヶ月）

通常、後期研修では循環器内科や呼吸器内科など専門分野に進むが、内科では特別なプログラムを設けており、後期研修1年目には引き続きシエナラルなトレーニングを目的として総合内科で4ヶ月間学ぶ。さらにICUで2ヶ月、残りの半年で将来の志望科や初期研修で回れなかった科を選択する。早い段階で認定医を取得できるようにと考えられたシステムだ。総合力

を身に付けてから4年目以降でサブスペシャリティに分かれて進む体制は、新専門医制度がスタートした場合にもスムーズな移行が可能だ。

また、家庭医を目指す研修医には日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医取得のためのコースが用意されている。現在3人が研修を行っており、総合医としての活躍や地域医療への貢献が期待されている。

## 軽度から難症例まで診断治療 手術件数は年間1万件超

外科分野の研修では豊富な臨床経験が積めることと、学術的な指導を受けることができることが最大のメリットだ。手術件数も多く、年間1万件以上の実績がある。

消化器外科教授の小澤壯治氏は、「ここから他の病院に患者を紹介して診療してもらおうということはありませんから、全てを引き受ける最後の砦としての役割を担っています。広い医療圏をカバーするため、簡単な症例から難しい症例まであらゆることに対応する能力が必要です」と言う。

高度な外科系の診療技術や能力が必要とされる食道や肝胆膵の症例数は、神奈川県でもトップレベル。がん治療にも力を入れており、放射線治療や化学療法、白血病の骨髄移植にも対応している。がん以外に循環器や呼吸器に併存疾患がある場合、各診療科の医師たちがサポートをしながら総合的に診療を行うなど、厚みのあるケアを提供していることが強みだ。

後期研修医1年目は大学病院で学び、2年目には関連病院へ、そして3年目にまた大学病院に戻る。本院以外の東京病院、大磯病院、八王子病院が本院より都心に近い場所にあり、関連



消化器外科教授  
小澤壯治氏

施設は神奈川、東京、茨城、群馬、埼玉と各地域にあり、それぞれの施設で臨床経験を積む。

東海大学出身者は多いが、毎年1割ほどは他大学からも採用している。市中の病院で初期研修を受けた後に、学術指導を受けるために同院の後期研修を選択するケースもあるという。

病棟での研修は、若手の医師にサポートをしてもらいながら中堅医師の指導を受ける体制で、「年齢が近いので相談しやすい」「親身な教育が受けられる」と後期研修医からは好評だ。「後期研修医の3年間は医師としての

実力が一番伸びる時期。その時期に多くの症例を経験し、外科系のスキルを満遍なく学ぶことで、外科医として基礎的な素養や能力を身に付けることができます。そうしてサブスペシャリティを決めたら、それぞれの領域で存分に伸びていってほしいですね」（小澤氏）



屋根瓦方式で先輩医師が指導

### DATA

#### 東海大学医学部付属病院

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143

- 開設：1975年
- 病院長：飯田政弘
- 診療科目：総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液腫瘍内科、神経内科、腎内分泌代謝内科、リウマチ内科、東洋医学科、心臓血管外科、移植外科、消化器外科、呼吸器外科、脳神経外科、小児外科、乳腺内分泌外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、麻酔科、救命救急科、歯科口腔外科、小児科、産婦人科、精神科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、画像診断科、放射線治療科、病理診断科、遺伝子診療科、臨床検査科、細胞移植再生医療科、緩和ケア科
- 病床数：804床
- 外来患者数：1日平均2526人
- 入院患者数：1日平均773人
- 手術件数：年間1万1941件  
(2015年実績)